



1. 社会実験の目的

1.1. 日本橋を取り巻く状況

日本橋は文化・交通・情報の中心地であったが、以前ほどのにぎわいが見られなくなっている。ここ数年で日本橋地域は大規模な再開発が行われている一方で室町地区は取り残されており、このまま何もしなければ再開発の波に呑まれ、衰退していく事が目に見えて明らかである。しかし、日本橋室町一丁目・本町一丁目の室町仲通りには現在でも数多くの老舗が残っている。そこで、本研究では社会実験を用いることで老舗を生かした活性化案を実行・検証することにした。

1.2. 社会実験とその意義

社会実験とは、住民参加を前提としてまちづくりのための計画案を本格的に実施する前に、場所と期間を限定して試行することである。特長としては、実社会で実験を行うことでまちに関わる多くの人が将来計画案を体験して、実験結果を評価することができる点にある。また、住民が実験までの過程に関与することでよりよい施策がスムーズに実施される可能性が高まる。

2. 日本橋学生工房での活動

2.1. 日本橋学生工房とは

本研究を行うにあたり所属した日本橋学生工房は、日本橋都市再生検討委員会（委員長：東京大学 森地茂教授）の提言を受け設立された学生団体である。学生工房は、学生の視点で日本橋周辺地区のまちづくりについて考え、調査やボランティア等の地元との交流を通して、まちづくりに関する提言を行うことを目的として活動している。

2.2. 住民参加

2.2.1. 住民参加の重要性と方法

まちづくりの計画は、行政や企業の手で進められることが多く、住民不在の計画に陥りやすい。しかし、快適なまちをつくるには地域の人々がまちづくりの全過程へ関与する「住民参加」が重要である。そこで住民

参加の促進を図るために、P I（パブリックインボルブメント）の手法をいくつか試みた。多くの手法があるが、この日本橋地域では、ワークショップ、パブリックコメント、ニューズレター、アンケートを行った。

2.2.2. ワークショップ（WS）の実施と結果

ワークショップ（WS）とは簡単な手作業を通して参加者同士が意見の交換・共有をし、まちづくりの案を模索する形式である。学生工房はWSを昨年9月から11月の間に計4回ほど主催・実施した。

初回は、WSが初めての体験もあって漠然とまちへ対する思いを語ったにすぎなかったが、2回目・3回目では、「通りは道幅が狭い割に路上駐車がが多く、危険で歩き難い」「通りのにぎわいの問題を解決すべき」という課題を浮き彫りにした。それと共にこれらの対処方法についても多くの意見と提案がでた。これらのWSを通して、地域の人と学生工房とが協力してまちの活性化を考えることができたと共に、実験案を提案するまでに至った。

2.3. 地域に関するヒアリング

室町仲通り活性化の核となる地元商店・老舗（計30軒）に対し2回のヒアリングを行った。1回目のヒアリングでは、仲通りの路上駐車問題、土日営業をする店が疎らなために休日の人通りが少ないなどの意見が多かった。2回目のヒアリングでは、1回目の結果を踏まえた社会実験案を提案した。具体的な実施方法や金銭的負担については各店ごとに態度に差があるものの基本的には賛成する人が多い事がわかった。

2.4. 室町仲通り及び周辺の交通状況調査

路上駐車が多さが問題視されている室町仲通りと周辺地域の路上駐車状況を把握することで、室一仲通りを歩行者専用化した際の影響を調査した。

室一仲通りに自動車が入れない場合、少なくとも50台分以上の駐車場の確保が必要である事がわかった。駐車時間は平日が30分程度、休日は60分程度であつ

たのでこれらを考慮した駐車場の料金設定を行う必要がある。

一方、駐車場の空き容量調査から周辺の駐車施設に100~200台程度の空きがあるものと推定される。従って、既存施設を活用する事で路上駐車分は充分に吸収できるものと思われる。

3. 社会実験の枠組み

以上のWS、ヒアリング、調査結果より社会実験は、室一仲通り商店街を“安全・快適でコミュニケーションのあふれるまち”にするために「車両を制限」し、「たまり空間」を創出することが適当であると考える。

その際、地域の魅力を最大限に引き出すには単発的なイベントや祭りではなく持続可能性のある活動を行う必要がある。今回の活動から日本橋の具体的な魅力

は人々の内側にあるもの、すなわち知識・人柄であることが分かった。住民と来訪者または地元住民同士のコミュニケーションを増加させ、いかに見せていくかということが「にぎわい演出」のポイントであり日本橋にしかない魅力の発信となる。

また、これらと同時に地域住民やボランティア・スタッフが常駐する「情報発信基地」を設置する。これにより地域全体の情報を集約し発信するスペースが確立され、新たな情報の収集が効率よくできることで「また日本橋に来よう」という動機付けにもなり得る。人々が気兼ねなく立ち寄れる場である住民同士や来街者と地域の人らのコミュニケーションが密度の高い状態で図れることも予想される。

以下に社会実験の概要と計画図を示す。

・実験概要 平成16年3月上旬(7日間)を予定

- i) 室町仲通りを歩行者専用道路化(午前11時~午後2時 午前5時~午後8時)
- ii) 周辺に駐車場案内板を設置、車両の誘導
- iii) たまり空間の設置(にぎわいの創出)
- iv) 情報発信基地の開設

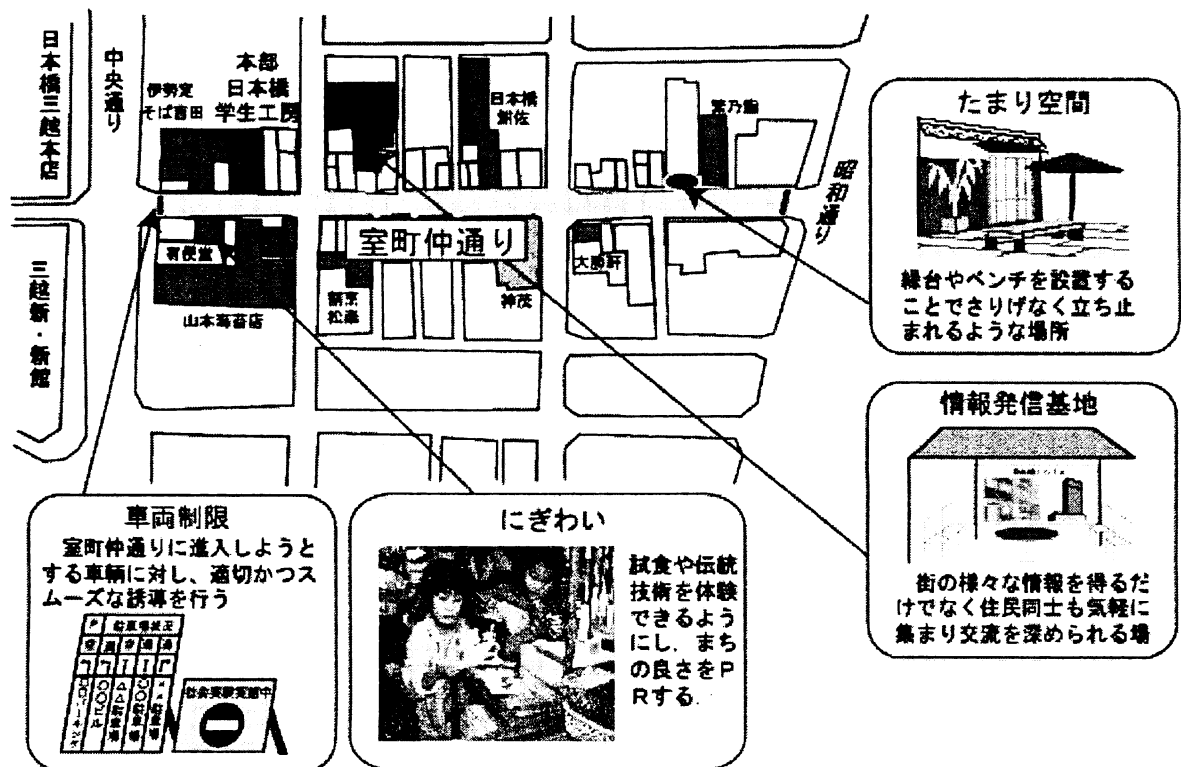


図-1 日本橋歩行者専用道路社会実験 計画図

4. まとめ

現段階では実験実施まで至っていないが、社会実験はあくまでも「実験」であり活性化の目的ではなく手段に過ぎない。即ち今回の準備過程にお

いて、住民のまちに対する意識向上や、自発的な活性化策の発案があったことも成果の一つである。

今後実験を実施し、その結果いかに継続的な活性化策を実施して行くかが最大の課題である。